称としては阿賀川として統一され、只見川合流以下は旧来の阿賀野川を用いて区別し、その第一期の大工事として同年十月二十六日、慶徳村の真木部落を包む泡の巻の蛇行部を開さくする事を始めた。これは真木部落を袋で包むようにして三、〇〇〇メートル迂回する、通称泡の巻の急崖深潭部を、その袋の口を一六一メートル切って捷水路をつくるもので、昭和五年四月十九日、九ヵ年の歳月を費して一応通水の運びになった。しかしこの地域は慶長十六年の記録が物語っているように、地辷りの常習地で、同年六月十二日から十三日にかけて約五二〇、〇〇〇立方メートルの地辷りが起り、つづいて昭和九年、十一年と三回連続して起った。このために津尻掘さくという別個な工事を派生させて、完成は昭和八年三月三十一日、十二ヵ年の歳月を経たことになっている。

2、土堀地内捷水路開さく　長井部落西部には土堀の蛇行がある。迂回路は一、一〇〇メートルで、これを口頭部一五〇メートルに切りつめようと、大正十二年五月二十七日泡の巻工事と並行して着工された。昭和五年三月二十五日、砂岩・礫岩など掘崩しの難工事もあったが、予定通り完工、通水した。

3、袋原地内捷水路開さく　ひきつづいて最も大きな袋原を迂回する六、〇〇〇メートルを五〇〇メートルの捷水路にする工事が、大正十四年五月二十一日着工された。この工事は計画延長約五〇〇メートルを、切取り最高三九メートル、河底幅員五〇メートル、土量一、四〇三、四〇〇立方メートル、工費は当時として四二万円余昭和十三年八月三十一日に完工した。

この三捷水路開さくによって、一〇、一〇〇メートルの自然迂回路が人為的水路八一〇メートルとなり、九、二九〇メートルを短縮したことになる。この落差は九メートルである。

4、宮川新水路開さく　この三つの捷水路開さくにひきつづき、湯川新水路を昭和三十五年三月三十一日完成なお工事継続中という日橋川筋の開さく工事というのがある。湯川は応永二十六年（一四一九）の大洪水で、城